

傍観者

埼玉県行田市 長光寺住職 福島伸悦

40年前、私は国際布教師としてアメリカ・ロサンゼルス禅宗寺に赴任して10年間布教活動に従事する機会を得ました。そこで目にしたのは、アメリカに根付きつつあるダイナミックな“生きた仏教“に出会ったことでした。アメリカの禪は、社会のニーズに適応した社会活動を積極的に取り入れていきました。坐禅を取り入れたカウンセリング、引退者ホーム・病院などへの定期的な訪問、ホスピス活動、刑務所訪問、ホームレスの人たちへの社会復帰職業訓練・ベーカリーショップへの雇用と言った活動です。とても新鮮に感じました。仏教の持つ限りない可能性と社会的使命感を再発見したのです。それは社会との関わりの中で具体的に動くということがいかに大事であることを教えてくれました。

自分のまわりの社会に起きていることが他人事ではなく、自分と繋がり関わっていることに気づき自分にできることを行動に移すということです。

今、少子高齢社会になっていることを実感しているところですが、地域においてお互いに助け合う社会の実現がとても大切だと思います。具体的に、子どもの登下校の見守りや、一人暮らしの人達の安否確認とか、身近なことでできることがあるはずです。傍観者になるのではなく、小さなことでもできることをコツコツと積極的に関わるようにすると、また違った世界が開けるはずです。そして、自分自身が生きがいをもって地域社会に貢献できるのです。他者の為に役立つことができることは幸せなことです。そのような輪が広がることによって地域全体が活性化するのではないのでしょうか。私は住職という立場で、地域の活動に積極的に関わっていこうと思っています。